

●8月・9月の取組

酷暑の8月が過ぎ文化の秋・スポーツの秋・実りの秋を迎えることとなりますが、暦の上では秋ですが、まだまだ猛暑や酷暑が続くと予想されています。里山の会ではぎっしりの取組を予定していますので、積極的に気楽にご参加ください。詳しくはホームページから内容をご覧ください。

- 8月** 29日 14:00 城陽教育委員会魚とり教室 現地下見打合せ会
 30日 第2回理事会
 31日 15:00 魚部会
 31日 15:00 ヤマトサンショウウオ発表原稿集約会議

- 9月** 2日 14:00 国交省淀川河川事務所 河川協力団体へのヒアリング
 6日 10:00 ヤマトサンショウウオ発表資料原稿集約会議 桜谷先生出席
 6日 10:30 竹サインペン製作行動日
 7日 11:00 昆虫観察 近畿大学オープンキャンパス ガイド桜谷先生 近畿大学学生
 8日 9:30 木津川玉水浜 魚とり教室 竹門先生出席 里山の会協力
 12日 10:30 竹サインペン製作行動日
 14日 13:00 京田辺市社会福祉センター 京都の淡水魚はどうなっているのかな 講師:細谷和海先生
 16日 9:30 笠置浜カヌー体験教室 25艇分
 20日 時間未定 真竹受取
 21日 9:30 木津川玉水浜 カルバート 竹割作業
 21日 13:00 魚釣り大会竿仕掛けづくり 40組 指導教室
 24日 10:00 同志社大学ボランティア活動に農園へ来所 樹木名札取付け 草刈り作業等
 27日 10:30 竹サインペン製作行動日
 28日 10:00 京都府植物園 第2回きょうと生きものフェスタ 竹蛇籠製作講習会 活動発表
 松かさツリーづくり 活動発表(ポスター展示)交流会
 29日 10:00 京都府植物園 第2回きょうと生きものフェスタ 竹蛇籠製作講習会 活動発表
 松かさツリーづくり 活動発表(ポスター展示)懇親会

●障がい者の集いに協力されました。

沖縄の三線バンド「キジムー」が出演して家族を励ましました。参加された皆様はそれぞれの子もたちが障がいをお持ちの親御さんで、大阪や奈良等各地からお集まりでした。ホテルのタベや里山音楽会に参加された折りキジムーバンドのメンバーにダウン症のマーちゃんが三線を奏でられるのを見て感激されて招待をされたとお聞きしました。演奏後ご家族の皆さんの心の悩みを話し合われたそうで、まだ幼児なので何とか出来ているが大きくなってくると心が痛いのですとか、施設で親離れをして自主的な生き方が出来るのだろうかといった不安を語られておられたそうです。



●淀川河川事務所の木津川出張所の所長さんに協力をお願いに行ってきました。

昨年の増水で中聖牛が破損して役立たなくなっています。それで技術保存のための場として竹蛇籠の製作と中聖牛の組立ての場を11月に実施したいので国交省の協力を5月にお願いしておきました。いよいよ設置のための準備を開始しなければならないタイムリミットの頃に成って来ました。所長さんの返答では維持活動予算の額は昨年と同額ですが、人件費の値上がりで予算が非常に苦しい状況ですとの返答でした。予定では9月28・29日の京都植物園での「第2回きょうと生きものフェスタ」での竹蛇籠製作講習会で18本の製作予定の真竹の提供と11月に予定している中聖牛組み立て設置の木材(2基分)の購入経費を強くお願いしておきました。21日の事務局で状況を報告すると現段階では木材購入の相見積もりを取っての準備をすることに決定しました。

●21日の事務局会議

「生きものフェスタ」や「城陽市環境フェスタ」、京田辺市の「市民祭り」に取り組むものとして「松かさツリー」づくりについて森島副理事長から150個の完成品があり、組み立てるべきものは250個分用意できていると現状報告がされました。9月になってくるとイベントを立て続けに実施しなければなりませんので、今の間に準備をしておくことは大変大事な作業です。誰もがまだ時間があると思っている間に日にちが過ぎて大慌てになってしまいます。さすが副理事長の森島さんです。ありがとうございます。感謝します。

●9月28・29日の「きょうといきものフェスタ」

やましろ里山の会は活動報告を28日13:40分からヤマトサンショウウオの取組の報告をしようとして準備を進めています。2007年に卵囊を発見して以来第2の生育池の発見まで10年が必要で、2017年に幼生が発見されました。そして第3の生育池の発見は2024年になりました。この間には日常活動を展開しつつ、観察調査のための夜間カメラの設置や自動測定器の購入設置、そしてデータの整理等に取り組んできました。約20年間の取組、特に2017年以降の取組を詳しく紹介いたします。ご期待ください。今私たちは発見したものが最後まで継続して守り続け記録にまとめることが何より大事なことでと桜谷保之先生(前近畿大学教授)や故村田源先生(京大講師・植物分類学)、そして故上島裕先生(京都府職員)が“後世のための資料収集が大切だ”と指導していただいて来たことを強く実感しています。京都府自然環境保全課とワークが目指している「自然環境博物館」の実現のための取組を始めて10年がたとうとしている今、こうした先人の語ってこられた言葉が生かされる日が一日も早く実現する事を願っているものです。

農園部会だより



●今年カボチャの苗木は15本を植え付けました。昨年はカボチャの収穫は全くない年となりました。作付けしたところの排水が行われずに水浸しの状態が繰り返えされたためらしいです。今年の作付けは水被害の及ばないところに植え付けたので20個ほどの実がなりました。数日前から明日は収穫が出来るだろうと考えて、収穫できた物は12個で、買い取っていただきました。残りの8個ほどのうち6個を写真のようにかじられました。最初の頃はネズミ



だろうと考えていましたが、これ程のかじり具合から見るとノウサギではないだろうかと考えられます。収穫前になれば吊り下げるとか口が届かない台の上ののせて保護しなければならないのではないのでしょうか。カメムシの大発生に加えてカボチャまでかじられるという被害の発生は考えられない事態です。異常気象の変化によって大きな変化が起きているのでしょうか。

●第27回環境講演会にご参加ください。

“うさぎ追いしあの山 こぶなつりしあの川”と歌ったのはいつの頃だったのでしょうか？ どのように変化しているのでしょうか？ あの川にいた魚や生き物はどうなっているのでしょうか？ 生き物は生きていますでしょうか？少し振り返ってみませんか。是非ご参加ください。

第27回環境講演会 参加案内

京都の淡水魚はどうなっているのかな

ひと昔前には、雨が降って木津川の水位が上がると多くの魚が小川や田圃に昇ってきました。一昔前には野原の小川でメダカは田圃でいくらかでも見られました。それがレッドデータに掲載され保護される時代になりました。人間の食事や暮らし方も大きく変化しています。川は危険だといって子どもたちは近づかなくなって自然に接する機会が遠くなりました。こうした時、身近なきょうとの魚たち（アユやメダカ・コイやフナ、ドンコ）はどうなっているのでしょうか。改めて地元の魚たちの現状をお聞きする機会（細谷和海先生）をもうけましたのでふるってご参加をお願いいたします。



2024年9月14日(土) 13:00~16:00

京田辺市社会福祉センター

演題 『きょうとの淡水魚はどうなっているのかな』

講師 近畿大学名誉教授 細谷和海 先生

参加費 無料

参加申し込み 60人
受付開始 8月1日から開始 定数になり次第締め切り
申込先 fddb257@yahoo.co.jp
記載内容 1氏名 2住所 3参加方法（自家用車・徒歩等）
4電話番号 5メールアドレス



主催 特定非営利活動法人やましろ里山の会 事務所：京田辺市田辺深田15 0774-64-4183
後援 (申請中) 京都府生物多様性センター 京都府自然環境課 京田辺市
京都府教育委員会 京都府市町村協議会 琵琶湖淀川流域圏交流会